

[科目名] 経営特殊講義Ⅰ (現代の企業経営とコーポレート・ガバナンス)				[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目 展開科目		
[担当者] 風間信隆		[オフィス・アワー] 時間:授業時間の前後 場所:教員控室			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] コーポレート・ガバナンス(「企業統治」ないし「会社統治」とも呼ばれることがある)についてその内容の深い理解とその国際比較を通して我が国企業の持続可能な発展に向けて改善・改革の方向性について検討を行う。コーポレート・ガバナンスは企業不祥事の防止と企業の競争力強化を目指して行われる経営者に対する監視・監督が問題となる。コーポレート・ガバナンスについては「会社は株主のもの」とする「一元的企業観(財産的企業観)」か「会社は社会のもの」とする「多元的企業観(制度的企業観)」のいずれかの観点から議論されてきた。本講義は、この二つの見方の統合(両立)可能性を論じる。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] コーポレート・ガバナンスは、現代の企業社会を理解するうえで不可欠な論点である。経営学ないし現代企業論を学んだ学生の皆さんはこのコーポレート・ガバナンスについてすでに多くのことを学び、理解しているはずである。ただし、これの科目での議論は経営学ないし企業論の部分領域に止まり、このテーマを全面的に取り上げるものではない。本特殊講義は、現代企業社会を理解するうえで不可欠なテーマであるコーポレート・ガバナンスに焦点を当てて多角的視点から検討することで現代企業についての深い理解が可能となる。							
[科目の到達目標] 現代のVUCA(「Volatility:変動性」、「Uncertainty:不確実性」、「Complexity:複雑性」、「Ambiguity:曖昧性」)の時代において、経営者の「両利き経営」(探索行動＝イノベーションと深化行動＝効率的な管理)が求められている。こうした経営者の行動を監視し、適切な監督・助言を行うことを目指すコーポレート・ガバナンスの確立は企業の持続可能な発展のためには不可欠となる。本講義において、コーポレート・ガバナンスについての理解を深めることで現代企業の持続可能な発展に貢献できる知的能力を獲得することを目指す。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 授業では、受講学生の皆さんの反応・意見に耳を傾けながら、常に授業の改善を心がけたい。授業へのコメント・改善点があればどしどし申し出て頂きたい。受講者の感想・意見を取り込みながら授業の運営を心掛けたい。							
[教科書] 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房。							
[指定図書] 勝部信夫著『日本企業論』文真堂刊。							
[参考書] 授業時に適宜指示する。							
[前提科目] なし							

**〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)**

学期末に定期試験を行う。 毎回、出席をとる。

原則として、中間レポートを課す。

以上の要素を最終評価にどのように反映させるかについては、「中間レポート」の提出要領の発表時と最終授業時に通知する。

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

大学での学修は、授業内容を単なる知識として「覚えていく」のではなく、授業内容自体を、「自ら考えていく」ための材料として、考える力を身につけ、伸ばしていくことが目指されている。その目的の達成につながるように、すなわち考える材料としての「コーポレート・ガバナンス論」になるような授業を行っていきたい。講義形式の授業になると思うが、できる限り受講生の皆さんからの質疑応答も交えて、双方向のコミュニケーションができるように心がけるので、受け身の受講態度ではなく、積極的に授業に出席・参加してほしい。

**〔実務経歴〕**

なし

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): コーポレート・ガバナンスの基本課題 内 容: コーポレート・ガバナンスとは何か、株式会社とは何か  <b>教科書</b> ・指定図書 プロローグ・1(株式会社とは何か)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の会社機関構造 内 容: 巨大株式会社と会社機関構造  <b>教科書</b> ・指定図書 II(巨大株式会社と会社機関構造)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 経営者支配と「株主の復権」 内 容: 株式会社と経営者支配、経済の金融化と新制度は経済学、マルチ・ステークホルダー・アプローチ  <b>教科書</b> ・指定図書 IIIとIV
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(1) 内 容: 日本的コーポレート・ガバナンスと企業不祥事  <b>教科書</b> ・指定図書 VIとVII
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(2) 内 容: 外部監視と利害多元的コーポレート・ガバナンス  <b>教科書</b> ・指定図書 VIII
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題(3) 内 容: 経営者報酬と同族企業のコーポレート・ガバナンス  <b>教科書</b> ・指定図書 IXとX

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(1)</p> <p>内 容:米国とドイツのコーポレート・ガバナンス</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XIとXII</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(2)</p> <p>内 容:英国と北欧のコーポレート・ガバナンス</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XIIIとXIV</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスの国際比較(3)</p> <p>内 容:韓国と中国のコーポレート・ガバナンス</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XVとXVI</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(1)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと資本コストと事業投資</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XVIIとXVIII</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(2)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと資本政策</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XIX</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本市場とコーポレート・ガバナンス(3)</p> <p>内 容:M&amp;A 機関投資家</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XXとXXI</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):「株主受託者責任」と「社会受託者責任」の統合に向けて(1)</p> <p>内 容:企業の社会的責任(CSR)、ESG 投資</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XXIIとXXIII</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):「株主受託者責任」と「社会受託者責任」の統合に向けて(2)</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと社会的企業・企業倫理</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 XXIVとXXV</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンスと企業価値の向上</p> <p>内 容:コーポレート・ガバナンスと事業の繁栄および本講義全体の取りまとめ</p> <p><b>教科書</b>・指定図書 エピローグ</p>
試験	<p>期末試験期間中に試験を行います。</p>